

検索

> Em PORTUGUÊS



> 社会

> 国内

> 経済

> 女性の広場

> ゲーム

> 会社概要

日本での定期購読の

ご案内

HP広告のご案内

> 社説「灯台」

> サンケイ新聞読者ア

ンケート

アンケート

> BBS

> LINKSHARE

> MITSUKOSHI

> SANKEI-SHIMBUN

大湿原の美しい自然を守ろう！ パンタナール環境保全で



《日本から実態調査・研究チーム》

世界遺産にも登録されている大湿原パンタナール地域の環境保全研究を行うプロジェクトが、去る八月二十四日から九月七日までの約二週間にわたって南パンタナールの河川流域などで実施された。同プロジェクトは二〇〇一年から三年間を一期として、二〇一〇年までの三期計九年にわたる研究で、地域の伝統的な知恵を生かした自然利用促進が主な目的だ。

《大切な子弟の教育問題改善も 生かしたい地域の伝統的知恵》

来伯したのは、プロジェクトリーダーの丸山浩明立教大学文学部教授をはじめ、宮岡邦任三重大学教育学部准教授（地下水関連）、仁平尊明筑波大学大学院講師（エコ・ツーリズム関連）、吉田圭一郎横浜国立大学教育人間科学部准教授（森林・植物関連）の四人。

同プロジェクトは、文部省科学研究費補助金により実施され、三期目となる今回は「ブラジル・パンタナールの伝統的な湿地管理システムを生かした環境保全と内発的発展」がテーマとなっている。

パラグアイ河、タクアリ河、ミランダ河流域を中心に、近年では牧畜地帯で広がる環境破壊の実態などを調査。南マット・グロッソ連邦大学助手で獣医学を専攻する日系人・小島アナ氏をカウンターパートに、地域住民に従来の伝統的牧畜方法などを見直してもらう考えだ。

パンタナール地域の環境破壊の原因として丸山氏は、（１）セラード開発に伴う土砂堆積（２）観光客のスポーツ・フィッシング、表面的なエコ・ツーリズムの影響（３）野火による山火事（４）森林伐採、の四点を挙げる。

また、地域住民の都会への流出なども影響し、環境破壊が著しく進む中、本来の農牧作業ができにくい状況になりつつあるという。

「『W I S E U S E（賢明な利用）』という地域の伝統的知恵を生かした利用」（丸山氏）を目指し、将来的には地域住民の子供たちの教育問題改善やパンタナール地域の伝統的牧畜の復活・見直しも視野に入れている。

丸山氏は全体的な総括として、三期にわたる研究の成果を書籍として、近く公表する考えを示している。

（写真：パンタナール保全研究のために来伯したメンバーたち）

2007年9月13日付

[戻る](#)

